



～ はなぶさ ～



京都府立東宇治高等学校

第3学年 学年通信

第 9 号

令和6年2月29日

1組担任 笹田 晴嗣

3年間の高校生活は、みんなにとってどのようなものでしたか？色々なことがあったと思いますが、今振り返ってみると「あっ」という間に過ぎ去ってしまったのではないのでしょうか？皆さんと出会ってから、3年になりますが、この学年は何事にも真面目に取り組む集団で、学習面ならびに学校行事や部活動などで大きな財産を築き上げてきました。みんなの一生懸命になって取り組んでいる様子を見て、こちらも楽しく過ごすことができました。さて、これから社会に出ていくわけですが、真面目さと誠実さを持って成長していってほしいと思います。

2組担任 蔵田 遥

3年生の最後の授業が終わって数週間がたった今、この文章を書いているのですが、絶賛「48期生ロス」に陥っております。1年生の時、掃除が終わった後帰って良いのかわからなくて不安な目をしながら黙って着席していたみなさんが、こんなに大きくなるなんて。いろいろなことがあった3年間だったと思います。成長には、痛みが伴うこともあって、いろいろ悩んだり傷ついたりしてきた3年間だったと思います。そんな、まさに「青春」なみなさんの姿を3年間見てきました。本当に、かけがえのない日々をありがとう。これからいろいろなものに出会い、成長していくことと思います。変化を恐れず、一度しかない人生を楽しんでください。

3組担任 山本 千賀子

受験や人間関係の悩み、苦しみは将来的に自分の財産になります。生きてるからこそ悩めるのです。そして家族や友人、これから出会う人との縁を大切にしていってほしいと思います。私が人生最大級のダメージを受けた時、どれほどの人に助けられたことか。電話の向こうで一緒に泣いてくれたのは数十年ぶりに連絡をくれた高校時代の友人でした。栄養剤や食料を持参し、家に駆けつけてくれた同僚や友人もありました。自分は独りじゃない。人は人に支えられて生きているんだと涙が止まりませんでした。みんなの存在も大きかったです。毎日のSHRや掃除の時間…四方山話で笑ったり、受験対応や遅刻や身だしなみのことで注意したり…。それらのやり取りはここでは当たり前の光景で、でもその一つ一つが私には貴重でどれほど救われたことか。平凡に見える日常の尊さをこれほど強く実感したことはありません。みんな、本当にありがとう。そして心から「卒業おめでとう！」

4組担任 川本 容子

卒業おめでとう。皆さんと3年間の時を共に過ごすことができたことをとても光栄に思います。「卒業」という言葉には、晴れやかな気分とある種の切なさを感じさせる、不思議な響きがあると思うのですが、皆さんは東宇治高校を卒業するにあたって、どのような気持ちを抱いているのでしょうか。明日からはそれぞれの道を進んでゆくことになります。これから歩いていく人生は良いことばかりではないかもしれませんが、悪いことばかりでもありません。山あれば谷あり、谷あれば山あり。さまざまな経験を重ねて成長していってくれることを期待しています。

5組担任 小野 輝弥

教師1年目の私が初めての生徒として出会ったのが 48 期生の皆さんでした。コロナ禍が続く中で様々な制限があり、苦しい時期がたくさんあったと思います。そんな中でも前を向いて必死に学校生活を送ってきた皆さんに本当に心を打たれました。真面目で不真面目な、やんちゃでおしとやかな、なんとも言い表しがたい雰囲気のこの東宇治高校 48 期生と関わり合えたことは私の幸せです。ありがとう。「教育とは学校で学んだことをすべて忘れた後に残るものである」アインシュタインの言葉です。変わりゆく時代の中で変わらない人間らしさが学校という空間で学べることだと思います。高校3年間で得た人間らしさを人生の糧に、これからの人生を豊かにしていけることを心より願っています。卒業おめでとう！

6組担任 川越 俊輝

2019 年 12 月ノーベル化学賞を受賞された吉野彰さんをご紹介します。1980 年代スマートフォンなどに利用されているリチウムイオン電池(リチウムイオン二次電池)を開発されました。「時代の流れのなかで、世間が何を求めているのかという匂いを感じ取る、一種の嗅覚のようなもの」が開発のきっかけとなったとお話されています。今後我々の生きる時代では、真実を見抜き、先を読む「嗅覚」が必要となります。この嗅覚を身につけるため、普段の生活から特定分野に固執せず、幅広い教養を身につけること、そしてたくさんの人との関わりをもつように意識してみてください。この積み重ねが今、この世界にはない価値を生む道筋となるかも知れませんね。無限の可能性を秘めた皆さんのご活躍を応援しています。

7組担任 朱 久美子

誰もいない放課後の教室に一人でいると、目に入るもの。倒壊寸前のジェンガの如く積み上げられた教科書。筆圧の濃い先生の消しきれなかった黒板の消し跡。絶妙なバランスで隅に立てかけられたほこりまみれのモップ。昼休みに手持無沙汰で書いてだらう妙に核心をついている落書き。そこで学び、過ごす皆の姿が浮かびます。Digital な数字の配列では表現できない、独特の温度と香りを感じます。一緒に学ぶ人の存在が、自分の人生を変える。と言い続けてきました。3年間、物理的な空間と時間を共有できたことを、本当にうれしく思います。皆はすごく変わった。私もとても成長させてもらいました。かっこ悪くても、面倒くさくても、汗臭くても、人は人との繋がりの中でしか、成長できないと思います。この先も、たくさんいい出会いをして、輝く人生を歩んで欲しいと願います。

